



希 望

多治見市立笠原中学校
令和7年度 学校だより『希望』
第2号 令和7年4月25日(金)発行

Encounter (出会い)

校長 熊崎 健一

始業式でのクラス発表や担任発表にドキドキ・ワクワクの表情を見せてくれた2・3年生。少し大きめの制服に袖を通し、ご家族に温かく見守られながら入学した1年生。4月は、新しい仲間、新しい先生との出会いがありました。人との出会いは、人との関係づくりの始まりです。そして、その道のりは決して平坦でなく凸凹で、それでいてちゃんと右上がりによくなっていくものです。昨今は『〇〇ガチャ』というような悲しい表現もされますが、それは自分の未来を運任せにしてしまうということ。人との出会いが自分にとってかけがえのないものになるか、自分を成長させる貴重な機会になるかは、自分自身の向き合い方に左右される(自分で変えられる)ものではないでしょうか？

新年度がスタートして間もなく3週間が経とうとしています。4月当初の組織づくりや対面式、児童生徒会役員の認証式など、何となく慌ただしい学校生活を送っていた生徒諸君も、今では教科の学習を中心とした“学校の日常”に順応しつつあります。新しい人との出会いもさることながら、今年度から試行している小・中学校合同の行事との出会い、新しい学習内容との出会いなど、そのすべてが生徒諸君の成長の糧となっていきます。様々な出会いとともに訪れるチャンスはどう自分の明るい未来へとつないでいくか？今後の姿に期待が膨らみます。

さて、私にも様々な出会いがありました。生徒諸君や教職員、小学校のみなさんはもちろんのこと、地域の方々との出会いです。笠原のヒト・モノ・コト(どんな人がいて、どんな所があって、どんなことが行われているか)をもっと知りたいという思いから、関係各所へご挨拶に伺ったり、神明神社の陶祖祭やタイル感謝祭に足を運んだりしました。出会った多くの方々とお話する中で、この町に育つ子供たちへの思いや願い、学校への大きな期待を感じることができました。笠原には「地域の子供は、地域で育てる」という風土が脈々と受け継がれています。だからこそ“地域の学校”としての在り方を生徒諸君とともに考え、実現していきたいという思いが一層強くなりました。

タイル感謝祭には、吹奏楽部の生徒が出演してくれました。陶都中学校と合同クラブでの活動です。休日に、他校の仲間と協力し、多くの人々が注目する中、演奏を披露し、最後に大きな拍手を受ける。このような体験も、すばらしい学びであると感じながら聴いていました。個人的には、30年前に高校で部活動の顧問をしていたいただいた恩師に偶然お会いできたことに感激でした。どこでも足を運べば、素敵な“出会い”に恵まれるものです。



～ 多治見市『親育ち4・3・4・3たじみプラン』親育ちコラム ～

多治見市では、『安心して子育てできるたじみをみんなで』をテーマとして「親育ち4・3・6・3たじみプラン」を策定しています。子供がお腹の中にいる時から3歳までの「4」年間、4歳から6歳までの「3」年間、小学生の「6」年間、中学生の「3」年間で「4・3・6・3」と表し、生まれる前から義務教育終了まで切れ目のない支援を提供できることをめざしています。教員委員会・保育幼稚園課・子ども家庭課・保健センター・文化スポーツ課・くらし人権課・多治見市社会福祉協議会が連携し、取り組みを進めます。「つながって ひろがって ほっとして 一歩前」を大切なメッセージとして、関係各課で共有します。子供たちの成長に関わる、様々な立場の人が、つながりながら、お互いに「安心」を届け合う。その安心を勇気に換えて、子供たちが挑戦し、成長していく。そんな機運が高まることを願って事業を推進します。



学校、保護者・地域の皆様と関係機関。「親育ち4・3・6・3たじみプラン」の事業が、保護者の皆様と子供たちの安心と笑顔を支えるプラットフォームとなることを切に願い、事業を推進して参ります。ご理解とご協力を、どうかよろしくお願いします。